

## 銘柄分析レポート：学習塾業界

### 1. はじめに

少子高齢化の進んでいる我が国において、学習塾は斜陽産業といえます。やや明るさも見えてきたとはいえ、長引く不況で労働者の賃金が落ち込んでいる現状では、なおさらです。

だからといって、学習塾が投資対象にならない訳ではありません。パイの拡大しない産業であっても、競合他社との差別化などにより、収益を伸ばし続けている企業は存在します。

むしろ、投資家の立場からすれば、斜陽産業というだけで評価が低く、安値で株を仕込むことができれば好都合ともいえます。

今回の銘柄分析レポートでは、学習塾業界から 4 社を取り上げます。

#### ★学習塾の売上高ランキング

順	社名	売上高
1	明光ネットワークジャパン(明光義塾)	49,287
2	栄光(栄光ゼミナール、ナビオ、ビザビ)	33,743
3	ナガセ(東進ハイスクール・東進衛星予備校、四谷大塚NETほか)	29,179
4	学研ホールディングス(学研教室、サイシン、あすなる学院ほか)	20,765
5	リソー教育(トーマス)	20,146
6	さなる(佐鳴予備校、さなる個別パートナー、啓明舎)	18,751
7	市進ホールディングス(市進学院、市進予備校、個太郎塾)	17,964
8	早稲田アカデミー	17,225
9	ワオ・コーポレーション(能開センター、個別指導Axis)	16,673

注) 売上高は2011年9月～2012年8月に迎えた決算期の数字（さなるのみ2011年6月期）

(出典：明光ネットワークジャパン 会社説明会資料)

### 2. 学習塾のタイプ

学習塾は、補習塾と進学塾に大別されます。さらに、指導方法により、集団指導と個別指導に分かれます。

以上よりクロスマトリックスを作成すれば、次の4タイプに分類されます。

1. 集団指導型補習塾
2. 個別指導型補習塾